きらめき マイタウン

水と森林が美しい 都市近郊部のオアシス

那珂川市（なかがわし）

南畑（みなみはた）地区

那珂川市の南部に位置する地域。那珂川を挟んで脊振（せふり）の山々が迫る立地は、田園と自然豊かな風景が楽しめ、冬の雪景色もまた情感を誘う

那珂川市

岩門城跡（いわとじょうあと）

鎌倉時代から戦国時代まで、長い間山城として使われていた岩門城跡は、登山客や歴史ファンに人気のスポット。標高200メートルの頂上からは福岡平野を一望できる

グリーンピアなかがわ

バンガローや野外バーベキュー場、山水プールのあるキャンプ村や花園、広場を備えた市営施設。自然を体感できる「五ケ山クロス」のスポットの1つ

ふれあいこども館

正式名称は「那珂川市複合児童福祉施設」。子育て支援の拠点として、就学前の子どもと保護者を対象に、読み聞かせや講座などのプログラムを実施。遊び場を提供している

ミリカローデン那珂川

文化ホールをはじめ、図書館や屋内プールなどがあり、文化・スポーツを楽しめる公共施設。映画やコンサート、体験学習などのイベントも数多く開催されている

かわせみの里

中ノ島公園にあり、地元の生産者が育てた旬の野菜や総菜、加工品、中山間地区で採れたお米など、新鮮な食が集う。低価格で豊富な品ぞろえが地域でも評判の直売所

博多南駅前ビル「ナカイチ」

博多南駅とつながる那珂川の東の玄関口として、今年3月にリニューアルオープン。交通の拠点以外にもカフェやコミュニティスポットもあり、多目的に利用できる

ずっと住み続けたい町から市への幕開け

10月1日、町から市へと移行し、那珂川市が発足しました。福岡市に隣接するベッドタウンとして人口が増加し、平成27年の国勢調査で市制施行の要件を満たす5万人を突破。県内で29番目の市となりました。

福岡都心部へのアクセスの良さ、市の7割が森林と、自然に囲まれ子育てしやすい環境や教育制度が整っていることなどが市の魅力。近年では、創作活動の場としても着目され、画家や作家をはじめ移住者を引きつけています。

市が掲げる「ずっと住み続けたい」まちづくりは、未来を見据えながら成長を続けています。

市のキャッチコピー

ここから那珂川市

KOCO COLOR NAKAGAWA-CITY

那珂川市と住民の「ここから」始まる未来を願って、名付けられました。

五ケ山クロス（ごかやま）

平成31年3月に県営五ケ山ダム周辺にオープン予定。福岡都市圏に近いアウトドアの新拠点を目指し、キャンプサイトやリバーパークなどを備える

移住交流促進センター「SUMITSUKE（スミツケ）」

市内でも那珂川の上流に位置する南畑地区。里山に位置するここを拠点に、地域の魅力や暮らしを紹介しながら、南畑地区への移住をサポートしています。

移住相談、情報発信基地としての役割を担うと同時に、地域住民が気軽に集える憩いの場にもなっています。高齢化や人口減少の問題と向き合いながら、南畑を元気にし、次世代へとつなげるための取り組みに励んでいます。

問い合わせ　那珂川市役所

那珂川市西隈1-1-1
☎092-953-2211（代表）
ファクス092-953-0688
https://www.city.nakagawa.lg.jp/

≫ ヤーコン

那珂川の特産物として注目され、中山間地で栽培されるようになったヘルシーな根菜。お茶やジュース、ドレッシングなどの加工品も作られている

≫ 新幹線ふれあいデー

毎年10月に博多総合車両所で開催されるJR西日本のイベント。ミニSL乗車体験や運転台見学などが楽しめ、子どもたちや鉄道ファンでにぎわいを見せる

≫ pick up《ピックアップ》

≫ 南畑美術散歩

多くのアーティストが移り住む南畑地区の自然の中、毎秋開催されるイベント。アトリエ巡りに加え、地元農産物の販売や体験教室なども催される

≫ 現人神社（あらひと）のおくんち

神功皇后、裂田（さくたのうなで）溝との関連が深い現人神社で、10月第3日曜日に開催される宮日（おくんち）。子どもたちの奉納相撲や流鏑馬（やぶさめ）を見に、多くの見物客が訪れる

≫ 毘沙門天（びしゃもんてん）祭り

冬至の日に、大山住（おおやまずみ）神社境内にある毘沙門天で行われ、毘沙門様の「福銭」を財布に入れると、その年はお金に困らないといわれる

市の木である
ヤマモモを使用した
特産品づくりから
描くまちおこし

那珂川市商工会女性部

1.メンバーは現在40人。昨年はヤマモモの栽培が盛んな徳島県への視察も行った　／2.那珂川市商工会女性部部長の山﨑美代子さん。「高い所に実がなっていたので収穫作業が大変だった」と振り返る　／3.新商品はタルトやまんじゅう、ゼリー、ジャム、ドレッシングなどさまざま。「やまももがたり」ののぼりが目印の協力店や女性部のイベントで販売

来年、活動50周年を迎える那珂川市商工会女性部。「市制を記念して、那珂川らしい特産品を作りたい」という目的で、市の木であるヤマモモに着目し、平成29年に発足したのがプロジェクト「やまももがたり」です。

1年目の試作段階を経て、今年は約700kgのヤマモモを収穫し、ピューレに加工。10軒以上の協力事業者が赤い色や甘酸っぱさを生かした新商品を開発し、10月から売り出されました。

「まちの人からは『懐かしい』、『よく作ってくれたね』という声をもらってうれしかったですね。いずれは女性部独自でヤマモモを植樹し、観光農園や中山間地域の6次化産業へとつなげていけたら」と話すのは、部長の山﨑美代子（やまさきみよこ）さん。苗木が成木になるまでの5年間の構想を思い描きながら、夢は膨らみます。

駅前ビルの
可能性を広げる
「ナカイチ」を
プロデュース

こととば那珂川

1.「こととば那珂川」のマネージャー、森重裕喬さん。NPOやまちづくりに携わってきた若手メンバー6人で企画・運営している　／2.ビルは新幹線が運行し、1日に約1万5千人の利用者が行き交うJR博多南駅と隣接　／3.「祭りなかがわ」の裏企画として開催した音楽イベント「ナイト・オブ・ザ・ギビング・マネー」の様子

交通の要、博多南駅前ビルを拠点に、まちづくりを推進するプロジェクト「こととば那珂川」。ビルの有効活用を目的に3年の準備期間を経て、今年3月にリニューアルオープンしたのが博多南駅前ビル「ナカイチ」です。

運営を務めるのは、マネジャーの森重裕喬（もりしげゆうすけ）さんらメンバー6人。「遊びや学びの“事と場”づくりをテーマに、情報共有ができるまちづくりオフィスの設立の他、カフェやキッズコーナーのあるスペースでは、マルシェや音楽イベントなども行ってきました。学生が勉強したり、通勤帰りの人などが日常的に立ち寄る穴場にもなっています」と森重さんは話します。

今後の目標は、つくってきた場の可能性を広げ、さらに生かすこと。市内外の誰もが利用できるオープンな場を目指します。

「なかがわタコス」と
市を盛り上げる
個性派の
PRキャラクター

トルティーヤ・ボーイ

1.考案者の新宮達広さん（右）とトルティーヤ・ボーイで広報活動中。メディアで取り上げられるなど、注目度がアップしている　／2.具材に市内産の食材を1種類以上使うというルールのもと、市内の協力店で、それぞれの味が楽しめる「なかがわタコス」　／3.武末茂喜（たけすえしげき）那珂川市長を表敬訪問。市長から激励の言葉をもらった

メキシカンハットをかぶった覆面キャラクターは、那珂川市を盛り上げるべく生まれた、その名もトルティーヤ・ボーイ。考案者は、市内で飲食店を経営する新宮達広（しんぐうたつひろ）さんです。

「もともと平成24年に、商工会の特産品プロジェクトの中で開発した新名物『なかがわタコス』のマスコットキャラクターでした。そのときは途中で頓挫してしまったんですが、今回、市になるタイミングで再挑戦です！」とガッツポーズ。

地道な広報活動を通じて「なかがわタコス」の協力店を増やしながら、11月に行われた「五ケ山クロスマラソン」など市のイベントに出演し、場をにぎわせています。今後はプロレスイベントを計画するなど「エンターテインメントの力で、まちのみんなとつながって、那珂川市を盛り上げていきたい」と闘志を燃やします。

子育て世代に
アピール
自然や教育が
魅力の地域づくり

南畑地域活性化協議会

1.南畑地域活性化協議会の初代会長を務めた添田繁昭（そえだしげあき）さん（左）と現会長の内野義光さん　／2.南畑を散策しながらのアトリエ巡りや、体験教室なども催される「南畑美術散歩」は今年で5回目　／3.月1回平日の夜に行われる協議会のミーティング。勤め帰りのメンバーも夜遅くまで熱心に討議している

中山間地域である南畑地区の過疎や高齢化の問題を解決しようと、6行政区の区長を中心に「住みたくなる南畑」を目指し、平成25年4月に「南畑地域活性化協議会」が発足。

芸術家が多く移り住む地域の特性を生かしたイベント「南畑美術散歩」や旬の食材を販売する「南畑ぼうぶら市場」の開催以外にも、「SUMITSUKE」の開設にも携わり、SNSを使った情報発信を通じて南畑のPRを行ってきました。

「『SUMITSUKE』を通して移住した人は8世帯23人になりました。教育熱心な先生がいるのも魅力で、自然の中で子育てしたい人が少しずつ目を向けてくれているのを実感します」と会長の内野義光（うちのよしみつ）さん。南畑の未来を見据えた地域づくりは着実に前進しています。